

受講対象者と申込方法、その他（必ずご確認ください）

1 研修の日程（詳細）

	日程	内容	講師	会場
【第1回】	8月2日（木） 13:30～17:00	■講義「専門研修について」 ■講義「サイボウズについて」	井上雅彦 氏 中谷啓太 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）
【第2回】	8月16日（木） 13:30～16:00	■講義「専門研修について」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）
【第3回】	9月4日（火） 13:30～16:00	■講義「専門研修第3回」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）
【第4回】	9月27日（木） 13:30～16:00	■講義「専門研修第4回」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	倉吉体育文化会館 （中研修室）
【第5回】	10月19日（金） 13:30～16:00	■講義「専門研修第5回」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	エキパル倉吉 （多目的ホール）
【第6回】	12月4日（火） 13:00～17:00	■実践事例 ■実践報告会 ■講義「強度行動障害の理解と支援」	※外部講師、調整中 ※受講者より選定 井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）

※この他に、県内で先駆的な自閉症支援を行っている事業所の見学を予定しています（半日程度）

2 受講対象者 ※次の【1】～【4】の要件を全て満たす者

- 【1】 事業所内で、行動障がい者支援を実践している者（行動障がいがある方の支援経験1年以上）
- 【2】 現に、行動障がいがある方を担当しており、週2回以上直接支援を行っている者
- 【3】 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）を修了、または今年修了見込みの者
- 【4】 6回の連続講座に全て出席できる者

3 受講定員 20人

4 申込方法・期限等

別紙のとおり必要事項をご記入後、FAXまたはメールにて **7月11日（水）** 必着でお申し込みください。

5 受講料 ￥2,000円

※初日（8/2）、受付にて徴収いたします。お釣りのないようご準備ください。

※受講者の都合により受講を取りやめた場合、一度納付された受講料は返還いたしません。

6 受講にあたって

受講決定者には、提出課題を送付いたします。7月18日（水）までにお手元に届かない場合は、下記担当までご連絡ください。

7 個人情報の取扱いについて

受講申し込みに係る個人情報については、本研修の実施に必要な連絡、名簿等の作成のみに使用し、作成した名簿は鳥取県が管理します。

8 その他

- 【1】 初日の受付時間は、8月2日（木）13:00～ です。余裕を持って、お越しください。
- 【2】 研修中、グループリーダーとWeb上で情報交換・情報の共有を予定しています。なお、使用方法については、研修中に時間を掛けてご説明いたします。
- 【3】 上記インターネット環境、及び事例対象者の動画撮影を、本研修では予定しております。予め、事業所内で、実施に関しての対応等について、検討等をお願い致します。

【申し込み、及び研修に関するお問い合わせ】 担当：山根、信原、上田
〒689-0201 鳥取県鳥取市伏野2259-43 社会福祉法人鳥取県厚生事業団
Tel 0857-59-6033 Fax 0857-59-6055 Mail t-kosei15@infosakyu.ne.jp

平成30年度

鳥取県強度行動障がい支援者養成研修 （専門研修）

日時：【第1回】平成30年 8月 2日（木） ※1
【第2回】平成30年 8月16日（木） ※1
【第3回】平成30年 9月 4日（火） ※1
【第4回】平成30年 9月27日（木） ※2
【第5回】平成30年10月19日（金） ※3
【第6回】平成30年12月 4日（火） ※1

会場：※1 伯耆しあわせの郷（大会議室）
※2 倉吉体育文化会館（中研修室）
※3 エキパル倉吉（多目的ホール）

定員：20人

講師：本県において、①先駆的に強度行動障がい者支援に従事している者、②地域生活、
日常生活にわたっての相談や心理アセスメントなどを実施している者、③自閉症、
強度行動障がいなどに関する、専門性をもつ者

【実施機関】社会福祉法人鳥取県厚生事業団

鳥取県強度行動障がい支援者養成研修（専門研修）

1 専門研修とは

平成24年度から鳥取県独自の研修（取り組み）として、①支援現場のリーダーの養成、②支援ツールの効果的な活用、③PDCAサイクル（実践と振り返り）の理解と習得、を目的として開催しています。

参加者は、各自1事例ずつ支援困難事例を持ち寄ります。グループ内で困難事例対象者の評価（対象者の理解、何に困っているのか、等）から、具体的な支援方法の立案、（実践後の）支援結果の評価、支援方法の再検討、を繰り返し行います。

研修プログラムを開発した井上雅彦先生（鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座 教授）により、現在、東京都や大阪府、和歌山県などでも同様の研修が開催されています。

2 研修の内容

■ 全6回のプログラム

平成30年度は、8月に2回、9月に2回、10月に1回、12月に1回、計6回のプログラムで開催します。研修の内容は、初日（8/2）が講義、最終日（12/4）が一般公開の「実践報告会」の他は、講義＋事例検討となります。2回目以降は、グループ内で具体的な支援方法の検討、支援結果の振り返り、支援方法の再検討を行います。研修と研修の間は、2～4週間あります。その期間、各事業所にて研修で検討した支援方法を実践します（図）。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
講義（※）	●	●	●	●	●	●
事例検討		●	●	●	●	

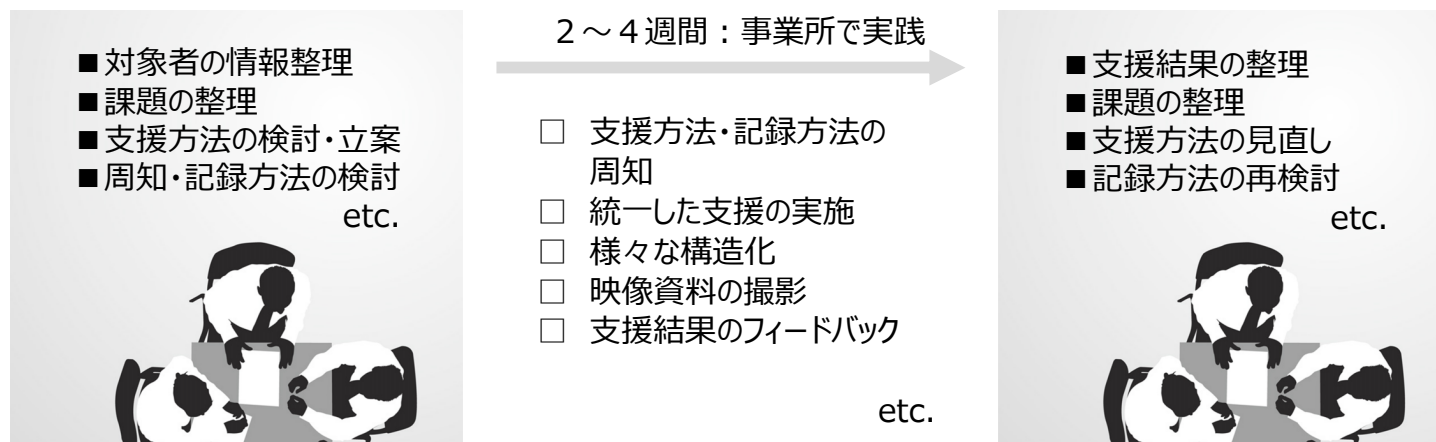
+ 実践報告会

※ 強度行動障がい支援、応用行動分析の概論、ICT（情報通信技術）の利用方法、チーム支援の実践のポイント、等

■ グループ内での事例検討

参加者2名と「グループリーダー」1名、計3名で、グループを作ります。事例検討は、この3名で情報を共有し、具体的な支援方法について検討します。グループリーダーは具体的な助言を行うほか、円滑に事例検討が進むよう、時間の管理も行います。またグループリーダーのサポートとして、2グループに1名、「マネージャー」を配置しています。マネージャーは、心理アセスメントや、課題解決のための包括的な視点での助言を行います。

【事例検討のイメージ図】



3 過去の実践

平成24年度のスタートから数え、参加者（支援困難事例）数は100名を超えています。ここでは、昨年度の「実践報告会」の中から2事例を紹介します。



20代後半
女性
(Aさん)

記録を基にした事前評価： 行動が起きる時間帯と行動の前後の記録から、余暇時間、特に買い物やドライブなど、Aさんが楽しみにしている活動の前後に多いことが分かりました。また、「私に関わって」（注意喚起）、「早く出かけた。また行きたい」（要求）が推測されました。

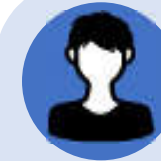
診断名：重度知的障害・てんかん
障害支援区分：5

Aさんにあった支援の開始： 楽しみな外出の時間は「いつ」なのかを理解しやすいよう、スケジュール（右図）を細かくして伝えました。また出かけるまでの時間「何を」「どうやって」過ごしたらよいかの分かりにくかったので、一人で行うことのできる課題（自立課題）を提供しました。

課題となっていた行動

- 大声、床に座り込む
- 手が腫れるほど壁や床を叩いたり、頭打ちがある

その後のAさん： 楽しみがいつあるのか、それまで何をして過ごしてよいかの分かり、自分を傷つけたり、大きな声を出すことは、大きく減少しました。余暇を楽しんで過ごす姿が見られています。



10代後半
男性
(Bさん)

記録を基にした事前評価： 行動が起きる時間帯と行動の前後の記録から、特別支援学校下校後～夕食までの時間に多いことが分かりました。何もすることがない時や、設定された活動に飽きた時に、廊下をウロウロしたり、他児童の部屋へ入り、他害が起きていました。他害や器物破損することで、「暇なんだよ」（要求）、「僕に関わって」（注意喚起）、といった理由・背景が推測されました。

診断名：重度知的障害・自閉症
障害支援区分：なし（未申請）

Bさんにあった支援の開始： Bさんの集中力が持続する30分を、一つの目安として余暇活動を検討。またジツとしていることが難しいことから、活動と活動の間に「リフレッシュ廊下歩き」を設定。大好きなiPadや鏡で顔を見る活動を取り入れ、ルールを守りながら、楽しんで余暇を過ごすプログラムを作成しました。

課題となっていた行動

- コミュニケーションが苦手
- 他害・器物破損・挑発行為

その後のBさん： 一度、課題となっていた行動が増加することがありましたが、Bさんへの説明と、職員間で支援を統一したことで、急激に行動が減少していきまし。やっぱり、iPadと、鏡で自分の顔を見るのが大好きなBさんです。

4 参加者、及び参加を希望される事業所へのお願い（①～⑤にご協力ください）

■ 強度行動障がい者支援のスタートラインに立つために

本研修では、具体的な支援方法を立案し、参加者が中心となって事業所内で実際に支援を行っていただきます。その際、**①対象者に関わる職員へ支援方法を周知し**、**②統一した支援**、を行うことで、支援の効果が期待されます。また、支援方法の効果を測るための、**③記録の徹底**は必要不可欠です。

■ 支援ツールの効果的な活用を目指して

本研修では、**④クラウドサービスを活用した情報の共有化**を試行しています。具体的には、スマートフォンやタブレット、パソコンなどの端末から、ネットワークを経由し、WEB上で記録の管理を行います。いつでもどこでもデータにアクセスできることで、情報の一元化、チーム全体の進捗状況の管理、ノウハウの共有化などが期待されます。

■ 映像資料による客観的な情報の共有

精神科病院での服薬調整や、外部機関との支援に関する相談、移行先との引継ぎ（移行支援）など、様々な場面で、正確な情報が求められます。客観的に現在、過去の状態を理解するうえで、映像資料はとて有効です。本研修では、**⑤対象者の動画（映像）を通じた情報の共有**を予定しています。